

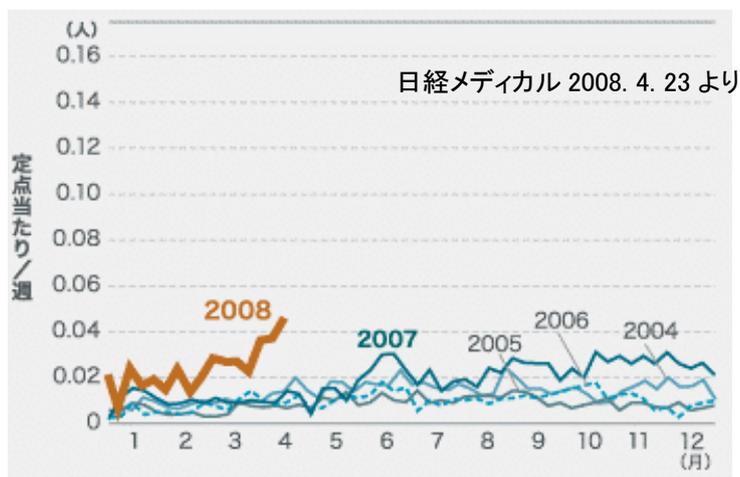
立命館大学 学生・院生・教職員の皆さんへ(重要)

立命館大学保健センター
 衣笠 075-465-8232
 BKC 077-561-2635
 朱雀 075-813-8153

百日咳の発症が、2008年度は過去10年間で最高水準になっています。

国立感染症研究所のまとめによると、定点における第13週までの累積報告で20歳以上の罹患者は全体の36.5%に上っており、近年は成人での発症が増加しているのが特徴です。

本学でも衣笠・BKCで百日咳の発症が続いています。感染拡大防止のため、以下のことについてご理解・ご協力をお願いします。



●百日咳の特徴：

- 百日咳菌の感染によって起こります。
- 患者さんの咳や汚染された手指から感染します（飛沫感染と接触感染）。
 → 感染予防： 咳のある人はマスクをしましょう。
 うがい・手洗いをしましょう。
- 百日咳の免疫がない人に濃厚接触した場合は、70～100%感染します。カタル期に咳が出始めてから痙咳期に入ると3週間の時点まで感染の危険が続きます。（ただし、治療すれば短縮します。）
- 小児期に3種混合ワクチン（破傷風・ジフテリア・百日咳：DTP）を計4回（Ⅰ期3回、Ⅱ期1回）接種していれば感染する可能性は低いといわれていますが、Ⅱ期目を受けていない方もいます。母子手帳など予防接種の記録を確認しておいてください。
 → 予防接種が不十分な人は、ワクチンについて医師に相談してください。

●百日咳の症状：

- 潜伏期間： 感染してからおおそ7～10日目に発症します。
- 出始めの症状は普通の風邪（感冒）と同じです。【カタル期】
- 1週間以上続く咳が特徴的で、咳はだんだん強くなります。【痙咳期】
 → 特に2～3週以上続く咳は、百日咳の可能性があります。
- 咳は、時にコンコンと立て続けに激しく咳き込みます。嘔吐を伴うこともあります。但し、成人の場合は、小児にみられるような典型的な発作性の咳は伴わないこともあります。
- 熱はないか、あっても微熱程度です。

対処方法

- 大人の百日咳は、最初、「咳」が出るだけで、風邪となかなか見分けがつきません。ですから、
- 「咳」が1週間以上つづく場合は、保健センターあるいは近隣医療機関を受診してください。
- 医療機関で百日咳と診断されたら、保健センターに連絡してください。百日咳は、学校保健法上「特有の咳が消失するまで」は出席停止となります。主治医または保健センター医師の許可が出るまでは、自宅で安静にし登校してはいけません。
- 百日咳の治療は抗生物質が有効で、5日間のマクロライド系抗生物質の投与で排菌はなくなりますが、中止するとまた菌が再出現します。最低7日間、症状により10～14日間は内服が必要です。